



2002
[アジア太平洋障害者の十年]
最終年

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2002 **11** No.612

発行日 2002年（平成14年）11月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/
編集発行人 清水勝夫
定価 80円（郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「母国と友だちは宝物」川崎市ふれあい館の学童保育のスタッフ、ローズマリーさんがフィリピンから来たのは10年前。初めは戸惑い孤独だったが、ふれあい館の識字学級で多くの人と出会い励まされたのがきっかけで、5年前に学童保育のスタッフになった。その後、母国の文化を子どもたちに伝えようと「ダガット（海）クラブ」を作った。「母国の文化と皆で手を繋ぐネットワークは私の宝物。来日してから色々な差別があったけど、自分で選んだ道だから良かったと思う」と笑顔で話す。（写真・文 菊地信夫）

あんぐる

十月一日はあいにくのお天気でしたが、大勢の街頭募金ボランティアに支えられ、共同募金運動のスタートを切ることができました。

今年、五十五周年を迎えましたが、共同募金の始まった昭和二十二年に街頭募金ボランティアをした女子高生は、当時の神奈川新聞に、「朝、一番最初に箱の中に入れてくれた人の姿、顔が残って忘れられない」と語っています。最近ではボランティアの方も、学生の参加が少なくなり、民生委員児童委員さんや福祉施設・団体の方々が活動の中心となってきました。

誰も、初めて街頭募金に立つ時はドキドキして、呼びかける声も小さいのですが、一度募金箱に募金していただき、胸に赤い羽根を付けてあげると、徐々に声も大きくなります。そして、二時間も経過すると声も擦れ、足は棒のようになります。

「ご協力をお願いします」の呼びかけに、道行く人が応えて「ご苦労さま」と募金してもらえらる時、疲れを忘れるとボランティアの方々は言われます。

また、街頭活動が終わり、ホッと一息入れる時飲む一杯の甘い紅茶が、とても美味しく感じられます。

県共同募金会事務局長 岡村良子

目次……………CONTENTS

- 福祉サービス第三者評価事業の創設に向けて……………2・3
- 「共生社会かながわ」を市民の手で……………4
- 子どものいのちを未来へつなぐために……………5
- 九百九十七人・百二十四団体の功績を讃え……………6
- 活動の「いま」そして「将来」を語り合う……………6
- 連載・企業の姿勢から学ぶもの(8)……………8・9